

1. 科目名 (単位数)	心理学的支援法 (演習)	3. 科目番号	PSMP3151
2. 授業担当教員	武内 智弥		
4. 授業形態	グループ発表、ディスカッション、体験学習 (ロールプレイなど)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	臨床心理学やカウンセリング関連の授業を履修していること		
7. 講義概要	心理学的支援法とは、何らかの援助を求める人(クライアント)に対して、行動変容を目的として、言語的・非言語的なコミュニケーションを道具として援助しようとする試みのことであると考えられがちである。しかし現代社会においては、心理援助を行う者の心構えは (カウンセリング・マインドと言われる)、対クライアントのみならず、地域支援やクライアント関係者、また大学での友人関係や部活動並びに職場や家庭においても「お互いに支えあう人間関係」を築く上で、重要な考え方とあり方を示唆している。そこで、本演習では、カウンセリングの理論と技法を学ぶと共に、より広く訪問支援や地域支援、クライアント関係者支援などの援助についても学び、自分の日常のコミュニケーションのあり方を振り返りながら、相手に寄り添うより適切な援助法を身に付ける。また、守秘義務等のクライアントのプライバシーへの配慮も学ぶ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会がクライアントの悩みの解決だけでなく、なぜ多くの人々がカウンセリング学習を求めるのか、その背景や理由が理解できる。 2. カウンセリングの基礎的な理論や技法である精神分析・来談者中心療法・行動療法を復習した上に、現在の主要な理論となっている認知行動療法 (論理療法) を含めたさまざまなカウンセリング理論と技法が理解できる。 3. 対クライアント以外の援助技術 (訪問支援、地域支援、クライアント関係者への支援等) について理解できる。 4. 守秘義務等のクライアントのプライバシーへの配慮について理解できる。 5. 受講生がグループ発表を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高められる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	各回の授業の事前学習・事後学習に指定した内容や、学習目標の1~4の内容に関する発表もしくはレポートを課す。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 なし 【参考書】 小俣和義 (編) 『増補版 こころのケアの基本—初学者のための心理臨床』 北樹出版、2020 下山晴彦 (監修) 『面白いほどよくわかる! 臨床心理学』 西東社、2012。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会がクライアントの悩みの解決だけでなく、なぜ多くの人々がカウンセリング学習を求めるのか、その背景や理由が理解できる。 2. カウンセリングの基礎的な理論や技法である精神分析・来談者中心療法・行動療法を復習した上に、現在の主要な理論となっている認知行動療法 (論理療法) を含めたさまざまなカウンセリング理論と技法が理解できる。 3. 対クライアント以外の援助技術 (訪問支援、地域支援、クライアント関係者への支援等) について理解できる。 4. 守秘義務等のクライアントのプライバシーへの配慮について理解できる。 5. 受講生がグループ発表を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高められる。 ○評定の方法 授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 授業への参加 (出席、態度、発言) 50% レポート・発表・確認テスト 50% 以上で評価を行う。		
12. 受講生へのメッセージ	ロールプレイングを行ったり、学生による発表を多く採り入れた授業形式となっています。心理学的支援法のさまざまな発想を学ぶことで、物の見方を広げ、より開かれた態度を身につけることを目指して下さい		
13. オフィスアワー	初回の授業で通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	心理療法やカウンセリングの発想と歴史	事前学習	心理療法やカウンセリングの歴史について調べておく
		事後学習	それぞれの心理療法やカウンセリングの歴史的つながりや発想の流れをまとめる
第2回	心理療法の特徴と適用範囲	事前学習	心理学的支援法と他の専門職や援助法との違いを調べておく
		事後学習	心理職としての基本的な態度や、心理学的支援法の特徴をまとめる
第3回	心理学的支援法を行うこととはどういうことか	事前学習	自分の話の聴き方のくせについて振り返っておく。
		事後学習	クライアントのニーズに合わせた心理職の対応についてまとめる
第4回	力動的理解にもとづく心理療法①基本概念	事前学習	局所論、構造論、防衛機制など基本的な概念を復習しておく
		事後学習	精神分析の基本的な概念と日常とをつなげ

			て理解し、それらを整理すること
第5回	力動的理解にもとづく心理療法②理解と働きかけ	事前学習	力動的な心理療法における面接技法について復習しておく
		事後学習	クライアントの言動をどのように力動的に理解するのかの視点を整理する
第6回	来談者中心療法	事前学習	来談者中心療法におけるセラピストの3つの態度について復習しておく
		事後学習	来談者中心療法で具体的に何を行っているか、「想像」をテーマにまとめる
第7回	認知行動療法①—行動アプローチを中心に—	事前学習	学習心理学について復習しておく
		事後学習	行動療法のアプローチについてまとめる
第8回	認知行動療法②—認知アプローチを中心に—	事前学習	認知療法・論理療法について調べておく
		事後学習	日常のことを題材にして、認知療法の枠組みでの内面の整理の仕方を復習しておく
第9回	ことばを主としない心理学的支援法（臨床動作法など）	事前学習	言語ではなく、からだを使った心理学的支援法について調べる
		事後学習	動作を扱うことの特徴や意味を整理する
第10回	家族療法・ブリーフセラピー・ナラティブセラピー	事前学習	家族療法・ブリーフセラピーやナラティブセラピーに特徴的な質問や働きかけについて調べておく
		事後学習	家族療法・ブリーフセラピーに特徴的な質問や働きかけの狙いや意味や使い方について整理する
第11回	コミュニティでの心理学的支援（地域援助）	事前学習	教育現場や福祉現場の特徴を復習しておく。コンサルテーションについて調べておく
		事後学習	個人面接中心の心理学的支援とコミュニティでの心理学的支援の相違をまとめる
第12回	心の健康教育と予防教育	事前学習	心の健康とはどのようなものか、予防とは何を意味するかをまとめる
		事後学習	主な現場において、心理職として心の健康増進のために出来ることを整理しておく
第13回	災害時・危機介入の心理学的支援	事前学習	災害や危機が起きた時の個人や集団の反応について調べる
		事後学習	それぞれの場面で、心理職として出来ること、また、すべきでないことをまとめること
第14回	心理師の義務・倫理①：情報の適切な取り扱い	事前学習	守秘義務とその例外、インフォームドコンセントについて調べておく
		事後学習	心理職として、情報の取り扱いに関して、現場で起こりうる影響や問題を整理する
第15回	心理師の義務・倫理②：研修・スーパーヴィジョン	事前学習	心理職の自己研鑽の場や方法について調べておく
		事後学習	心理職の責務・役割と研修・スーパーヴィジョンの関係を整理・理解すること